

# 令和6年度 長崎中学校 学力向上プラン

学校教育目標 「自ら求めて学ぶ生徒の育成」  
 研究主題 「しなやかに考えあきらめずに挑戦する生徒の育成」  
 ～ 自律・調整・創造する活動を通して ～

指：取組指標

## 《目指す授業》主体的・対話的で深い学びの実現

	生徒主体の授業	理由を問う、説明する授業
国語	・学習課題の精選 ・ペアやグループ活動による学び合いの推進	・単元ごとに条件作文 ・文章を要約する場面の設定
社会	・思考をまとめ議論する場面の設定 ・疑問を持ち、学習課題を設定	・社会的事象を多面的多角的に説明する場面を設定する。
数学	・導入における生徒の問題理解を促す場面の設定	・条件が変わった場合でも、例の解き方や説明を元に数学的に考えを書く場面の設定
理科	・実験観察の確実な実施 ・ペアや班での活動	・予想や考察の時間の充実 ・ペアや班で説明しあう場面の設定
英語	・学習の流れを示す ・課題解決学習の推進	・個で考えペアで高める時間の充実 ・アウトプットを意識した協働学習
音楽	・合唱では基本練習を取り入れ、パートリーダー主体で活動 ・「合唱練習の自己評価」というワークを使い、振り返りの記入	・鑑賞ではどのような音楽なのかを、自分で調べる力をつけ、言葉で表現
技家	・作業をグループで実施 ・毎時間振り返りの記入	・作業レポートに工夫や考えを記入 ・ものづくりを通してPDCA
美術	・表現活動では、基本計画を踏まえ制作計画を各自で決定。	・鑑賞では美術的なものの見方・考え方で説明する
保体	・ペアやグループ活動で課題解決 ・運動を撮影し分析	・運動を撮影しアドバイスをし合う ・実生活に即した課題の設定

《主体的な学び》生徒が目を輝かせて主体的に学習問題へ取り組めるように教材研究を行い、振り返りを通して生徒自身でAAR（見通しー活動ー振り返りー復習（予習））サイクルを回し、学びを調整しながら教科の資質・能力を向上させる（各教科で2～3単元、単元内自由進度学習を実施）。

《対話的な学び》教材や先人、仲間等との必要性のある対話を生む学習問題を設定できるように教材研究を行い、協働的な学びができるように支持的風土の醸成を図り、チームとして問題解決に向かわせる。

指 授業アンケート(生徒)の肯定的割合「授業内で自己決定の場がある」90%(1学期 85%)「ペアやグループで深める」90%(1学期 85%)、「自分の意見をじっくりまとめる」80%(1学期 70%)「学習方法を見直す」80%(1学期 77%)。

## ～「自律」「調整」「創造」する活動を通して～

### 《家庭・地域との連携》

- ・宿題を原則設けず、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ・日々の記録・計画を行うための手帳をつけさせ、自己管理する力を高める。

指 学校評価アンケート(生徒)「家庭学習の習慣が身に付いている」→70%(R5 60%)

### 《学力の基盤づくり》

#### みんなで学ぶための4つの約束

- ①3・2・1運動の徹底
- ②相手の話をしっかり聴く
- ③伝えたい人に伝わる大きさと話す
- ④学び合いの場は自分たちで整える

#### 授業づくりの4つの視点(長中スタンダード)

- 「な」 ながれをつかむ  
 「が」 がまんづよく考える  
 「さ」 さらに深める  
 「き」 きーわーどで振り返る

### 《教員の指導力の向上》

- ・校内研修で対話による主体的な学びや単元内自由進度学習をテーマに実践共有の場を設ける。
- ・授業参観実践週を設け、お互いの授業を見合い、授業を評価し合う場を設ける。

指 学校評価アンケート「研修が充実し、資質が向上している」→95%(R5 93%)

### 《本校生徒の抱える課題》

根っこの課題(質問紙調査・日頃の観察より)  
 「失敗を恐れる・逃避する」生徒が多い

学力課題(各種学力調査より)

平均正答率については、概ね全体を上回っている。国語では「知識及び技能(3)我が国の言語文化に関する事項」、英語では「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る」、数学では「Dデータの活用」が課題である。